

第1回 播磨町長期総合計画審議会 議事概要

開催日時	令和元年9月30日(月) 午前10時00分～12時00分
開催場所	播磨町役場 第一庁舎3階 BC会議室
出席者	<p>【長期総合計画審議会委員】</p> <p>田端 和彦 (兵庫大学・兵庫大学短期大学部 副学長)</p> <p>正木 隆資 (播磨町商工会 副会長)</p> <p>佐伯 亮太 (国立明石工業高等専門学校 非常勤講師)</p> <p>高木 利浩 (播磨町連合PTA協議会 会長)</p> <p>草部 芳彦 (播磨町社会福祉協議会 副会長)</p> <p>前田 忠男 (播磨町自治会連合会)</p> <p>尼木 智美 (NPO法人スポーツクラブ21 はりま 理事)</p> <p>藤本 徳子 (播磨町連合婦人会 会長)</p> <p>津村 道彦 (公益社団法人加古郡広域シルバー人材センター 事務局長)</p> <p>松井 佳子 (播磨町人権擁護委員)</p> <p>森田 孝明 (播磨町社会教育委員)</p> <p>田尻 美恵子 (播磨町教育委員会教育委員)</p> <p>井澤 妙子 (住民委員)</p> <p>正願 智教 (住民委員)</p> <p>井上 晴喜 (住民委員)</p> <p>【町】</p> <p>清水 ひろ子 (町長)</p> <p>岡本 浩一 (理事)</p> <p>松本 弘毅 (企画グループ統括)</p> <p>野中 照代 (企画グループリーダー)</p> <p>大友 敬 (企画グループ主事)</p> <p>藤井 滉平 (企画グループ主事)</p>
欠席者	なし
議題	<p>1. 開会</p> <p>2. 町長あいさつ</p> <p>3. 委員紹介</p> <p>4. 会長・副会長の選任</p> <p>5. 諮問書の手交</p> <p>6. 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5次播磨町総合計画策定方針 ・人口の現状分析 <p>7. 閉会</p>
資料	<p>資料1 播磨町長期総合計画審議会設置条例、播磨町長期総合計画審議会規則、播磨町総合計画の策定に関する規程</p> <p>資料2 播磨町長期総合計画審議会委員名簿</p>

資料 2 - 1	第 1 回播磨町長期総合計画審議会 配席図
資料 3	播磨町総合計画策定に係る組織図
資料 4	第 5 次播磨町総合計画策定方針
資料 5	播磨町人口の現状分析
参考資料	第 4 次播磨町総合計画（基本計画中間見直し）、播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略、播磨町人口ビジョン

1. 開会

2. 町長あいさつ

- ・町 長：お忙しい中、本日会議に御出席いただきありがとうございます。また、委員を引き受けていただき、ありがとうございます。播磨町では第 5 次総合計画策定の時期となりました。今後 10 年間、町はどのような方向をめざして進むのかをご審議いただき、忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。

- ・委嘱については机上に委嘱状を配布。任期は本日から令和 3 年 3 月 3 1 日まで。

3. 委員紹介

- ・出席者自己紹介

4. 会長・副会長の選任

- ・会長に田端委員、副会長に正木委員を選出。
- ・会長と副会長より挨拶

【会長】

私の役割は議論を引き出すことだと考えている。兵庫大学では熟議を行っており、住民の方や大学生の意見を引き出すことをしている。どのような課題でも議論をしなければ解決策は見いだせないと常々申し上げている。今回は総合計画という大きなまちづくりの方向性を決めるということで、非常に重要である。忌憚のないご意見をお願いしたい。

【副会長】

長年播磨町に関わってきており、町内の事はよくわかっているつもりである。長期計画の策定ということだが、計画倒れにならないようにいい播磨町を作っていきたい。そのためにも皆さんのお力をお借りしたい。

5. 諮問書の手交

- ・町長より、田端会長へ諮問書の手交

6. 議事

【会長】

本日の議事録の署名を、藤本委員と尼木委員にお願いしたい。

○第5次播磨町総合計画策定方針

(資料3～5について町から説明)

【委員】

播磨町は9平方キロメートルと小さい町で、6平方キロメートルに人、3平方キロメートルに工場などが集中している。また町政の努力のおかげで区画整理により番地も分かりやすくなっている。そういうことをコンパクトシティとして先行していることを念頭に町の特徴を踏まえた計画を策定していただきたい。そういう文章を加えてもらいたい。

【会長】

これまでの経緯をこの計画策定の中でどこまで反映させていくかが、課題となろう。また、都市計画の関係では、都市マスタープランは作られているかと思うので、そういったものとの関係。先ほどの説明では、今回の計画は一番の上位計画であるので、それに基づいて都市マスタープランであったり、住宅マスタープランであったりが、この関係を整理した説明が必要である。総合計画が考えられた背景は、予算の配分で何を重点に取り組んでいくのかということであった。昔の計画は総花であらゆる分野が書かれていた。しかし90年代ぐらいから各分野の計画を作りなさいということになり、各個別計画が作られている。本来は、総合計画が一番の上位計画であるので、それに基づいて各計画を作ることになるのであるが、各個別計画の計画期間がずれていて、また、その計画期間は国が定めており、国の方針に基づいて策定されている。総合計画と各個別計画にずれが生じていて、この調整はできていない。総合戦略とは調整することになっている。さて、ご質問の区画整理などについてであるが、総合計画では、例えば住みやすい町にするには、どうすべきか、どこに道路があればいいかなど考えていくというのが本来の流れである。先ほどのご意見にあったように、これまでのことをどのように反映させていくか、現状のなかでは難しいのではないのかと考えている。コンサルタントからは播磨町の持っている強みと他の地域が持っている事例を組み合わせるアイデアとして出していただくこともあるかと思うが、原則は、本日の委員と住民、職員の皆様が作っていくことになるので、いろんなご意見をいただきたい。

【町】

先ほどは、この審議会の中で、どのように総合戦略や総合計画の策定を進めていくかという流れの説明であった。委員のご意見にあった、具体的なまちづくりの事例を今後どう計画に反映させていくかは、この審議会で議論いただきたい。総合計画がなぜ大切かというと、現在、第4次総合計画に基づいて事業を遂行しているが、その中で、5本の柱に沿って予算編成をし、年度当初に施政方針を公表させていただいている。総合計画、総合戦略の大きな目標や方針に沿って毎年度予算編成を行っており、その中で具体的なものを盛り込ませている。そういう部分においても、ご意見やご提言をこの会議でもいただければと思う。播磨町は、町制施行60年近くになるが、半世紀以上にわたり先人が進めてきたまちづくりを引き継いで、いろいろな施策を進めている。それを未来の住民、子ども達にどう引き継いでいくか、どう発展させるかが今の私たちの使命であると思っている。また、今までの取り組みも十分踏まえて、まちづくりを皆様と一緒に考えていきたい。

【委員】

仕事柄、地域でいろいろなワークショップを行うことが多い。播磨町内では「播磨ゆめづくり塾」の塾長をしており、町内でワークショップを行っているが、非常に播磨町は難しいまちである。播磨町に越してきて5年になるが、播磨町で同世代、30歳代、40歳代の人に会えない。播磨町のいいところと課題を出すワークショップをやってみても、課題が出てこない。たいへん住みやすく、住めば都の町だと感じている一方で、住民の町に対する意識の薄さに危険性を感じる。そういう意味で、今回の第5次総合計画を作っていくのは、そういう機運を高めるきっかけになってもらいたいと考えている中で、住民参画はワークショップ1回のみ、参加人数40人程度ということで、住民の意見を聞くとか住民と一緒にやっという部分が少し薄いのではないか。最近のまちづくりのトレンドは、計画を作るときは、ワークショップ単発ではなく、4～5回繰り返しながら、合意形成をどう作っていくか、意見を積み上げることが重要だと考える。県内では朝来市が総合戦略を作っており、「朝来未来会議」という住民100人位のワークショップを5回積み上げていて、計画づくりのプロセスの中で住民も育ってくる、活躍できる住民が新しく見つかるので、もう少し住民がまちづくりを考えるきっかけがこのプロセスの中で生まれればよいと思う。

【町】

若い世代の意見を聞くワークショップも予定している。参加をしやすいように単発のワークショップを考えている。高齢者や女性団体を対象としたタウンミーティングのほか、毎年実施している各自治会の行政懇談会も生かしながら、たくさんの方のご意見をいただく予定である。

【会長】

市民会議やワークショップの中で、同じメンバーに何回も意見を聞くことで、計画を作っていくというプロセスがいいのではないかという意見でしたが、町の説明では、アンケートやワークショップなど広く住民から意見を聞こうという判断と思うが、いかがか。

【委員】

気になったのが、次回の会議は、第2回でワークショップの結果概要となっていて、次に専門部会の検討に入ってしまうことを考えると、なかなか計画策定のプロセスに住民の意見が反映されにくいスケジュールになっていることを危惧した。計画策定の中でわざわざワークショップを開くというのは手間であるので、既存の組織の中で意見を聞くということは重要であるが、場合によってはこの会議もワークショップ的にやってもいいし、できるだけ意見が積み上がってほしいし、住民がかかわるきっかけがもっとあればいい。町から説明があったように、広く意見を集める方法もあるかと思う。

【委員】

プロセスに関する質問だが、私たちは第5次総合計画を策定するのか、もしくは第2次の総合戦略を作るのか。延長案を作るのか。一緒に総合計画と総合戦略の延長案を作るのか。

【町】

今回、10年前と大きく違う点は、総合戦略という人口減少に特化した計画を総合計画と一体的に策定していくことである。両方の策定となる。計画案については、町の組織である策定委員会、専

門部会の方で案を策定し、順次お示しし、この審議会で、意見をいただきたい。

【委員】

ワークショップやタウンミーティングの参加者は年配の方が多い、子育て中の若い世代の方に参加してほしい。この計画に関係してくるのは、そういう若い世代になってくる。

【町】

以前に小中学生を対象にタウンミーティング行ったこともある。行政懇談会などになかなか女性が出てこられる機会が少ないので、昨年度から「はりま女性会議」を開催しており、女性団体などに、生活者としての視点、女性としての視点を聞く機会も設けている。そうしたご意見もこの会議に反映させていきたい。これからの播磨町を担っていく世代の意見を聞く機会をできるだけ設けていきたい。

【委員】

幼稚園や小学校のPTA役員会が月に1回程度ある。その中で、教育委員会のお話がありビデオを見せていただいたこともある。先ほどのタウンミーティングなども、そういう機会を利用していただければと思う。忙しいけれど、役員さんは用意してきているので、忌憚のない意見が出るのではないかと思う。

【委員】

住みよいまちとはどんなまちか。若い時は、働く場所があってイベントをたくさんして、買い物もできて環境がいい、そんな強いまちが住みよいと思っていた。最近は、港を生かしたまちづくりはできないか、ベッドタウンでいいのではと考えるようにもなった。町内でも地区ごとに状況は異なるので、そういうバランスも考えながら計画を策定できればと考えている。

【委員】

私が引っ越してきた時の町の人口は9,000人程度だった。今は家がたくさん建ち、外国人も増えている。今後、播磨町の調整区域はどうなるのか。宅地になるのか。自治会長を中心に月1回地域部会をしている。小中学校のPTA役員や民生委員、各種団体が集まり、いろんな問題とかの会議をされている。そういうのがどこの自治会でも広がっていけば、地域の様々な問題点も、参考になるのではないか。大中遺跡まつりは、貫頭衣を身に着けて参加できれば、「播磨町」＝「大中遺跡まつり」となって、イベントがいい宣伝になるのではないか。

【会長】

10年後を考えた場合、人口や都市計画のことが関係してくる。住民の意見を集めるために、自治会や婦人会など、既存の組織を活用してはどうかとのご意見があった。また、「大中遺跡まつり」などの強みも生かしていければと思う。災害の事、環境問題など、どういう人が関わってくるか、10年後を考えることの重要性についてご意見をいただいたと思う。

【委員】

幼稚園の保護者から「播磨町は子育てしやすい」「子育て支援に力を入れていただいているので助かる」「子育てしやすいと聞いて引っ越してきた」という意見をいただいた。子どもを取り巻く環境や保護者のニーズも変わってきていると思うが、保護者の意見を聞くことが大事ではないか。播磨町の子ども達をどう育てるかと考えながら計画を作っていくことが重要であるとする。

○人口の現状分析

(資料5について町から説明)

【会長】

今回の議事内容になるであろう「人口の見通し」に向けて、他に必要な資料があれば、おっしゃってほしい。次回には準備できるかと思う。

合計特殊出生率が1.66に回復した主な原動力は何であるか。

【町】

就任当時は兵庫県下で最低の合計特殊出生率だった。子ども達がいないうちには活気が出ないため、子育て支援にも力を入れてきた。突出した施策1つに力を入れるのではなく、メニューを多くしてきた。様々な方と意見交換の機会があるが、子育て支援が良いという意見も聞かせていただいている。子育て支援は時間をかけて、10年程経たなければ効果が出てこない。日本全体で人口が減ってきているが、町としてはこうした施策を継続し、一定の人口は維持していきたい。

【会長】

20代から40代女性の人口数の変化なども、今後の人口増加のためには必要であると思う。住宅地の開発見通しなども、調整区域がどのようになるのか、農地転用の状況等により、新たに利用可能な土地がどのくらい出てくるのかも重要となる。

【委員】

町全体の人口は増えているが、地区によっては、子どもが少ないところ、人口が減ってきているところもある。地区別の人口がわかる資料も出してもらいたい。

【委員】

今年度の播磨町の直近の65歳以上の割合は28%程度だったと思うが、人口総数は変わらないが、高齢者は増加している。私が住んでいる地区も非常に高齢化していたが、最近宅地も増え、若い転入者も増えている。古田の明姫幹線の北側が調整区域になっているが、用途変更が可能かどうかという見通しも教えていただきたい。また、シルバー人材センターへは60歳から入会可能であるが、定年延長ということもある中で、どのようにすれば住みよいまちになるかをシルバー人材センターでも検討している。高齢者の人口が増えているというデータもお示しいただき、シルバー人材センターの事業の参考にさせてほしい。もう一つは、防災の関係で、町でも要支援者の援助について取組が行われていると思う。そのあたりはシルバーでも検討を行っているが、総合計画にも住みよいまちづくりということで検討に加えてほしい。

【会長】

地区別人口や年齢構成の重要性、明姫幹線の話、防災の重要性の関係は 10 年後を見据えた課題としてご意見をいただいた。

【町】

直近の人口、9月1日現在で 34,612 人、高齢化率 27.09%。65 歳以上が 9,376 人、75 歳以上の後期高齢者が 4,580 人である。若い方と懇談すると、子育て支援が行き届いていて住みたいと思うが、土地代が高いので諦めて他市町に住居を持った人もいる。町道浜幹線については、全線開通後、今も宅地開発が進んでおり、そのおかげで人口は微増している。ため池を埋め立てて宅地開発すれば人口は増えるが、今の住環境を守ることも大切であり、町の宅地開発の在り方もある。

【委員】

播磨町の市街化区域と調整区域の割合が、稲美町とは逆であるとよく比較される。市街化区域の中に指定された生産緑地地区についても 2022 年問題と言われており、そういう地区が開発拠点になりえるかと思う。この情報も今回の計画に掲載してもらいたい。空き家の問題に関しては、兵庫県の調査によると播磨町にも空き家は 1,000 件程度あるかもしれない状況の中で、空き家バンクを作ったが、登録はまだ 1 件だけである。空き家を有効活用し、社会的ストックととらえ、若者の転入のハードルを低くしてもらいたい。兵庫県は 6 か月だけ空いている家に対し 100 万円単位の補助金があるが、基本的には各市町の補助制度の上限までしか出せないとしており、播磨町は 20~30 万円のためうまく制度活用ができない。そのあたりをうまく生かせることができればと思う。また、高齢者人口の中でも健康寿命が重要。元気で動ける高齢者の割合などが見えるといいし、そういう人が町内の施設に入ることができているのかなどもわかるとよい。

【委員】

人口増の原因として、アパートが増えた。定住という観点から、アパートに居住する人の割合が出せたら、今後の人口の検討材料となるのではないか。

【会長】

国勢調査に基づくデータであれば出すことは可能だと思う。

【委員】

平成 7 年に人口が 109%になった要因は何か。

【会長】

恐らく、阪神淡路大震災の影響であろうと思う。

予定の時間になったので、第 1 回目の審議会はこのあたりで終わりたいと思う。皆様の積極的なご意見をいただき、ありがとうございます。町においては、委員の意見を踏まえて、多くの住民の意見を吸い上げてほしいと考える。少し気になったのが、アンケートの回収率が 38%という低さである。

【町】

熱心に議論いただき、また貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございます。
次回の審議会は、11月下旬を予定している。

7. 閉会

【町長】

皆様、積極的なご意見をいただきありがとうございました。先日行った行政懇談会では、住民の方々から近い将来の災害時の地域のあり方についてご質問があった。まず自助、共助、公助で、公助は最後に作用するものと思っただきたいと申し上げている。まず、ご自分の命を守り、次に地域の皆さんで助け合うことが大事である、そのためには、それぞれの地域の地域力が大切。総合計画、総合戦略の策定にあたっては、行政だけでは限界があるので、協働ということが一番大切だと考える。行政の力が及ばない部分においては、住民の方の力をいただきたい。また、現在は子育て支援の延長として、子どもたちの教育にも力を入れているが、学力の定着で全国の平均以上の学力をつけることが将来の選択肢を増やすことになると思っている。町内で多くの原体験を持ち、それを大人がサポートすることで、義務教育を終えた後、町外に巣立っても、子どもたちが戻ってきたいと思う町「ふるさと回帰」をめざしている。この大切な10年間の計画を皆さんに委ねている。

本日は、熱心な協議をありがとうございました。

(終了)